

# かまど囲み交流しよう

長老ヶ岳（標高917㍎）のふもとにある京丹波町の「長老の郷」で、長老との交流が楽しめるイベント「1日ふるさと体験」が12月5日、府和知青少年山の家（同町上粟野）で初めて開かれる。1年かけて完成したかまどのしゅん工式を皮切りに、地域では「人とのつながりが芽生えたら」との期待が、ふくらむ。

## 京丹波に完成 5日初の催し

会場の上粟野区を含む旧 人たちでにぎわっていた和知町の北部地域は、「長が、最近では高齢化と人口老の郷」とも呼ばれ、自然 減が進む。中でも、上粟野豊かな地として知られる。区は16世帯27人、65歳以上登山やアウトドアを楽しむ は73%を占め、町内一の高



NPOのメンバーが1年かけて完成させたかまど  
（京丹波町上粟野・府和知青少年山の家）

## 地元長老と新米味わう

齢率を誇る集落だ。

上粟野区は「多くの人を呼び込みたい」との思いがあり、地域再生のきっかけづくりを担うNPO法人「京都もやいなおしの会」（事務局・京都市右京区）が、かまどの炎に人が集う企画を考えた。昨年11月から耐火れんがやコンクリートなどを使い、手作りのかまどを仕上げた。

ふるさと体験では、参加者と一緒にかまどの完成を祝って、天然のわき水で地元産の新米を炊きあげ、イノシシ汁やイモ煮などを味わうほか、地元の長老と一緒にしめ縄づくりも楽しめるといふ。

京都もやいなおしの会の小川嘉幸事務局長（50）は「亀岡市は「かまどをきっかけに都市と農村の継続的な交流につなげたい」と話し、梅原昇治区長（58）「何度も足を運んでもらい、第二のふるさとにしてほしい」と期待する。

開催は午前11時から午後3時まで。ご飯は無料。おかずは有料。問い合わせは小川事務局長の携帯電話090(73033)80660。

（二松啓紀）